

(書式5) 研究会・研修会等参加報告書



平成30年 2月 3日

(会 派 名) 市民の声

(会派代表者) 出 田 泰 三 殿

(会 派 名) 市民の声

(氏 名) 斉 藤 義 明

研究会・研修会等参加報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 会議の名称 鋭い質問のポイント in 博多
 ①人口減少社会の自治体の今後の課題と切り込み方
 ②県職員，区長での経験をもとにした質問のポイント
2. 会議の日時 平成30年2月2日（金曜日）
 ①10時 ～ 12時30分
 ②14時 ～ 16時30分
3. 会議の場所 リファレンス駅東ビル
 （福岡市博多区）
4. 出張の期間 平成30年2月1日（木曜日）～2日（金曜日）
5. 参加議員名 斉藤 義明
6. 会議の概要

別紙のとおり

※ 会議の資料等を添付して下さい。

(別紙)

①行政サービスの効果や有効性の分析

○概要

自治体の今後の主たる課題は、社会資本の再整備（公共設備の適正化）と少子高齢化による福祉予算の増大化（財政の悪化）である。その対策として、自治体は内部管理を強化し、職員の削減、給与カットおよび政策の選択等に取り組む。そこで必要なことは、減量化、効率化、簡素化等具体的な手法である。そこがはっきりしているかどうか、議員の質問は、その具体的な手法に落とし込めるかどうかが重要になる。クレーム発生では、対応して解決しただけでは駄目で、その原因は何かを追求する姿勢が質問を良くする。そのためには、現場の確認・事実調査が必要不可欠。業務革新では組織のフラット化（上位下達⇒下位上達、中間管理職の大幅削減、職員の意識変化）に目を向ける。

質問のポイントは、①主張?政策、②目的の正当性?方法の妥当性、③定説的?定量的/期限・数値、④評価は理事者ではなく顧客（セグメントされた市民）、⑤ムダ、むだ、無駄はとにかくやめる、⑥PDCAのあり方は時機を得てるか、⑦他の自治体の状況（ベンチマーキング）を聞く、⑧知恵比べはしない（理事者に調べさせる*立案させる*仕事させる）

○所見

今までもそのようにやってきたが、今後の一般質問に更に活かしていきたい。